

東久留米市立第十小学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひらがな」の学習では、特に促音、拗音、助詞（は・へ・を）の理解が不十分な児童が25%程度いる。 ・正しい書き順で、バランスよく文字を書くことが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで、短文を書く学習や日記指導を行い、正しい書き表し方やマスの使い方を習得させる。 ・ひらがな・カタカナ・漢字・数字等、文字指導の時間を十分確保し、丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導を徹底する。 ・1日1文字、新出漢字を学習する際に、文作りをさせる。 ・80%以上の児童が正しい文章を書くことができるように、毎週1回は日記を書かせ、確認・指導する。 ・ノート指導を徹底する。 ・1日1文字、新出漢字を学習する。 ・90%以上の児童の定着を目指し、小テストを実施する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・10までのたし算、ひき算がすらすらできない児童が10%程度いる。 ・演算決定が（十分に）できない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題（プリント・計算カード・ドリル）に毎日取り組むようにし、基礎・基本の定着を図る。 ・問題場面をイメージできるように、「絵・半具体物、動作化等を活用した学習の工夫」を繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・90%の児童が基礎的な計算を正しくすることができるように、週3回程度計算カードやフラッシュカードを使って、問題を出す。 ・80%の児童が正しく演算決定できるように、文章問題を授業や宿題で出し、月2回程度小テストを実施して、確認・指導する。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階的に未分化で自己中心的な世界にいて、身近な人々、社会および自然を自分との関わりに気付き、それを表現することができない、若しくは苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接実物に触れたり、身近な人々と接したりしながら感じたことを交流する機会を多くつくる。 ・学び合いを大切に、気付きの質を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の視点や関わり方の観点など、思考させたい内容を明示し、活動の時間を十分に確保する。 ・授業後に振り返りを行い、気付いたことを話したり書いたりさせる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面で10%程度の児童に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を工夫し、個別指導やスモールステップでの指導を行い、表現することの楽しさを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察、個別指導。 ・90%以上の児童が、すすんで活動に参加できるようにする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・児童によって生活経験に差があり、手先が器用でない児童が10%程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に初めて使う用具や材料は、実演を見せたり、練習させたりして、基礎的な技能を身に付けさせる。 ・個別指導でポイントをアドバイスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察、作品。 ・90%以上の児童が、基礎的な技能の習得ができるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面では個人差がある。しかし、取り組む姿勢は、ほとんどの児童が前向きである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを使って上手に運動ができるポイントを学ぶ。 ・「見る→実践する」のメリハリを大切に、お互いの動きを見合ったり、良いところを伝え合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察、個別指導。体育カードの記述。 ・ペアやグループでお互いの活動を見合い、友達にアドバイスを伝え合う時間を十分確保する。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の体験が少なく、教材を通して自己を見つめることが難しい児童が、20%程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や写真などを提示し、自分の生活について想像しやすい場を作る。 ・自身の振り返りでは、具体例を挙げて児童にイメージをもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察、ワークシートの記述。 ・毎時間、振り返る時間を確保する。 ・90%以上の児童が、教材を通して自己を見つめることができるようにする。

東久留米市立第十小学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	漢字まとめテストで70点未満の児童が約30%程度いる。 自分で文章を読み、聞かれている内容を理解して答えることができない児童が約30%程度いる。	・新出漢字の習熟を授業で図り、練習や宿題プリント等で定着を図る。 ・事実、考え、聞いていること等について、問題文に印をつける等して理解力を向上する。	・漢字小テスト以外にタイミングを計り小テストを実施し定着80%にする。(各学期2~3回) ・自分で考え答えを見つけられるように、授業中の発問を増やし、プリントも実施する。(週2~3回) 読みのテスト正答率80%にする。
算数	学期まとめのテストで70点未満の児童が約30%いる。 繰り上がり繰り下がり、時計の学習内容が理解できている児童が少ない。	・1年の時の学習内容の復習プリントを宿題や練習プリントとして取り組ませる。 ・1年生の学習内容の繰り上がり繰り下がりや時計について復習プリントに取り組ませる。	・まとめテストの正解率80%にする。 ・毎日時計について全体に質問する。計算プリント正答率80%にする。(週2~3回)
生活	観察の視点について理解できていない、表現できない児童が約30%いる。 社会及び自然と自分との関わりについての理解が不十分である。	・自分の考えの発表や友達の考えからの学びや発見等から、ものの見方を学べるようにする。 ・普段の身の回りの事象と結び合わせるような、担任からの声かけ、授業中の説話や学習指導、ワークシートの活用等を実施する。	・色々な学習内容で発表する場を増やし、友達の意見を聞き、語彙を増やす。 ・ワークシートや観察カード等のカード類を友達と見合うようにして、考えの深化を図る。(B評価80%が目標)
音楽	・主体的に授業に取り組むことができない児童が10%程度いる。 ・器楽等では苦手意識をもつ児童が10%程度いる。	・学習規律を徹底し、児童が取り組みやすいワークシートや楽譜を用意する。 ・スモールステップの課題や個別指導の時間を確保する。	・学習の様子を観察により、90%の児童が楽しく取り組めるようにする。(毎時間) ・学習の様子を観察し、個別指導の時間を確保し80%の児童が苦手意識をもたないようにする。(各題材1回以上)
図画工作	主体的に学習に取り組めない児童が数名いる。 基礎的な技能の習得に課題がある児童が10%程度いる。	・児童の興味や発達段階に合わせた題材を設定する。 ・用具の使い方を実演や演習で分かりやすく指導する。個別指導でポイントをアドバイスする。	・活動を観察、指導する。(学びに向かう力評価B以上を90%以上。) ・児童同士で教え合ったり学び合える場を設定する。(知識技能評価B以上を80%以上。)
体育	色々な運動に意欲的に取り組んでいるが、技能面・公正公平面には個人差がある。	・色々なゲームで、チームワークを生かしながら、友達の良さを見つける。(認め合う)	・毎時間、チームの作戦タイムや、個人の作戦タイムを設ける。
徳特別の教科道	教科書を理解し、自分を振り返ることができない児童が約30%いる。 『道徳的な気付き』が持てない児童がいる。	・掲示物、範読、事例等を分かりやすく説明し、イメージしやすくする。 ・自分の考えを言葉にし、発表し、友達の考えも参考にしていく。	・事例を沢山挙げ、自分の生活について振り返る時間を確保し、90%の児童が振り返ることができるようにする。(毎時間) ・自分の考えをもち、友達の考えを聞き、同じか違うか、について考える児童90%以上にする。(毎時間)

東久留米市立第十小学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	教材の読み取りを全体で行い、その後、自分の考えをまとめるときに、考えをもつことが難しい児童が多い。 漢字の習熟ができない児童が多い。	・少人数の話し合い活動を週3回取り入れ、自分の考えを整理することができるようにする。 ・漢字の練習をする習慣を付ける。漢字テストの前には、練習の仕方を確認して取り組めるようにする。	・自分の考えをかける児童80%以上。 ・学期末まとめのテストでは、平均80点以上にする。
社会	地図等の資料から、分かったことを自分の言葉で表すことが難しい児童が多い。 地図記号など、理解できない児童がいる。	・資料に何が書かれているのかを全体で確認し、その資料から分かることを ・どの単元においても地図を頻繁に出し、学習の習熟を図る。	・教師からの問いかけに対し、資料を用いて自分の考えをノートに記入することができる児童80%以上にする。 ・学年末のテストで80%以上正解できるようにする。
算数	友達の考えを聞き、自分の考えに生かす児童が少ない。 必要な数字や言葉を精選できず、出てきている数字を全て使って立式してしまう児童がいる。	・友達の考えを聞き、どの部分がいいのかを全体で共有していく。小集団で考える時間を設定す ・問題文にアンダーラインを引かせ、大切な数字や言葉に着目できるように指導する。	・ノートに自分の考えを書けるようにする。(自分の考えをかける児童80%) ・単元の授業で文章題のときには毎回行なう。(テストで正しく引ける児童80%)
理科	理解しなければならない部分をしっかり定着できていない児童がいる。	・一度だけでなく、数回に分けて復習をしていくように指導する。	・ワークテストの知識・技能範囲においてきちんと理解し、学期末ワークテストにおいて80点以上の得点を取れる児童90%以上を目指す。
音楽	主体的に授業に取り組むことができない児童が10%程度いる。 器楽等では苦手意識のある児童が10%程度いる。	・学習規律を徹底し、児童が取り組みやすいワークシートや楽譜を用意する。 ・スモールステップの課題や個別指導の時間を確保する。	・学習の様子を観察し、授業に進んで取り組む児童90%以上を目指す。(毎時間) ・学習の様子を観察し、苦手意識の無い児童95%以上。(各題材1回以上)
図画工作	集中して作業に取り組むことができない児童が10%程度いる。 友達や先生と同じものを作ろうとするなど、全体的に自分なりの発想をもつことに苦手意識がある。	担任や特別支援の先生方と相談しながら、それぞれの目標をもたせて学習に取り組ませる。 参考作品や参考写真はできるだけ多様な種類を用意する。導入では、できるだけ友達同士の意見交換する場を設けて、イメージを広げる手助けとする。	・活動を観察、指導する。(学びに向かう力評価B以上を90%以上を目指す。) ・活動の観察、作品から評価する。(思考力判断力表現力の評価Aを30%以上を目指す。)
体育	集団の中で、規律を守れず個人行動をとってしまう児童が複数いる。 自分なりのめあてをもって取り組む児童が少ない。	自分の行動が全体の遅れに繋がっていることを気付かせ、適宜声を掛ける。出来たときには認め、何がよかったのかを価値付けていく。 ・授業開始時のめあての設定と終了後の振り返りを行い、本時にはどのような取り組みを目指すかを具体的に考えさせるようにする。	・自主的に行動ができる児童90%以上を目指す。 ・ワークシートで、めあてに対しての自分の考えを書ける児童が90%以上を目指す。

特別の教科 道徳	授業の中で自分の考えをもてない児童がいる。	・展開後段では、少人数で話し合う時間をつくり、友達の意見も参考にしながら発言できるようにする。	・展開後段の自分の考えを表現する時に、自分の考えをノートに書くことができる児童90%以上を目指す。
	ねらいとしている価値ではないことを、ノートに書いている児童がいる。	・導入では、ねらいとしている価値へ結びつきやすい導入の工夫を図り、授業の構成がぶれないようにする。内容項目がずれないように、補助発問の準備を行う。	・毎回ノートを確認し、ねらいとしている価値をノートにかけている児童90%以上を目指す。
外国語活動	一部、発音が苦手の児童がいる。	・チャンツやゲームを繰り返し行ったり、児童の英語に慣れ親しみ、表現できるようにほめていく。	・スピーチやゲームなどで単語や文章を発表するときに発音を意識することができる児童90%を目指す。
	コミュニケーションをとるのが苦手な児童がいる。	・様々なペアを組み、コミュニケーションをとり合い、たくさん行うことで慣れ親しむようにする。	・様々な相手と、英語を活用してコミュニケーションをとっている児童90%以上を目指す。
総合的な学習の時間	与えられたテーマに対して、自ら課題を設定できる児童が少ない。	・普段の生活やこれまでの経験と関連させ、わずかな疑問から調べるテーマに関連させられるような声掛けを進める。	・教師から与えられたテーマに関連した課題を、自分なりの言葉で設定できる児童90%を目指す。
	調べ学習において、課題に関連した内容を検索したりまとめたりすることができる児童が少ない。	・テーマから自分が調べたいキーワードを見付けさせ、そこから広げていけるようにワークシートを工夫する。	・まとめの作品（リーフレットや新聞など）では、テーマに沿った内容がまとめられる児童80%以上を目指す。

東久留米市立第十小学校 第4学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	物語文では登場人物の心情を文章に書かれている内容から読み取る力、説明文では各段落の要約する力を高めていく必要がある。 文章を書くことが苦手な児童がいる。習った漢字を使えなかったり、助詞を間違えたりする児童がいる。	・読み取りの学習では文章に書かれている内容を根拠考えるように指導する。伝えたいことを書く活動を増やしていく。 ・漢字スキルの指導を徹底し、漢字ノートの宿題で細かい部分を丁寧に練習できるよう指導する。作文では正しい分の書き方を指導する。	・3学期の説明文単元において平均点が80%を越えることを目標とする。 ・2・3学期末の漢字まとめテストの平均点で80%を超えることを目標とする。
社会	単元のまとめをする際に、自分の生活と結び付けて考えられている児童とそれが難しい児童との差がある。 調べ学習の際に、様々な資料から必要な情報を見つけ出して、分かったことや気付いたことをまとめること時間がかかる。	・まとめや振り返りでは、単元の身近な事柄について想起させ、記述できるよう指導を行う。 ・表やグラフ、写真の読み取り方を授業で頻繁に指導して、どんな観点で読み取ればよいのか伝えて、調べ方を指導していく。	・2・3学期の各単元のまとめ【ノート】で、一人一人の記述から、思考の評価を行う。(B評価80%以上) ・毎時間のノートの振り返りをチェックし、意欲的に取り組んでいる児童を紹介する。(B評価80%以上)
算数	・自力解決の問題になかなか自分の考えを書くことができず、学習が受け身になっている児童がいる。 ・かけ算やひき算などの筆算で繰り返し繰り返し下がりの基本的な計算ミスをする児童がいる。	・ホワイトボードやノートなどを見合うなど、交流の仕方を工夫し考えを広げる活動をする。 ・授業の冒頭に前時の復習、既習事項の確認を行い、計算タイムを設け繰り返しの指導で定着を図る。	・友達のノートやホワイトボードなどを見たときに自分の考えが書けるようにする。(自分の考えをかける児童80%) ・年末に、全ての問題を正確に解くことができるか確認する。
理科	・理解しなければならない部分が定着できていない児童がいる。 ・文章だけでなく、動画、図などを使って説明していく。	・一度の説明では理解が難しい場合もあるため、一つずつステップを踏んで学習する。 ・動画、写真などを使い、児童にイメージをもたせるようにする。	・テストの知識・理解の部分の点で正確に書けるようにする。(B評価80%以上) ・テストの平均点が80%を越えるようにする。
音楽	・主体的に授業に取り組むことができない児童が数名いる。 ・器楽の課題で苦手意識のある児童が10%程度いる。	・教材を工夫し、個別指導やスモールステップで、表現することの楽しさを味わわせる。 ・スモールステップの課題で達成感を感じられる機会を増やす。	・主体的にすすんで音楽活動に取り組むことができる。(90%以上) ・個別に見取る機会を確保し、取り組みの様子を確認する。(80%の児童で基礎的な技能の)
図画工作	自分の表現に自信をもてず、発言や鑑賞に消極的な児童が多い。 全体的に自分で考えたり、自分の力で粘り強く取り組んだりすることに課題がある。	挙手発言に頼らず、作品やワークシートの写真を撮ったものを共有するなどの機会を増やす。お互いいいところを見つけて伝え合う機会を増やして自信をもたせる。 ・発想や工夫の点で、自分で考える時間を十分に確保し、友達と意見交換する場を設ける。	・活動を観察、指導し、積極的に考えを伝えられる児童70%以上を目指す。 ・活動の観察、個別指導をする。(思考力判断力表現力の評価A以上20%以上を目指す。)
体育	・用具を操作する運動において、動きのコツをつかむことが苦手な児童がいる。	・授業の中で、児童がコツを見付ける機会を増やし、それを全体に広める時間を取る。	・学習カードを活用し、自分がどれくらい伸びたかを確かめる。(技能の伸びが認められる児童70%)

戸	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止のため、児童が運動不足になっている傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的距離を保ちながら、多様な動きをする運動や走・跳の運動などを工夫して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを活用しながら、振り返りで評価する。（B評価70%以上）
道徳 特別の 教科	<ul style="list-style-type: none"> 資料の内容は理解できても、自分のことに置き換えて考え、表現することが難しい児童がいる。 道徳的な内容について、振り返る際に、自分の考えを言葉で表現できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考える時間を確実に確保し、友達の意見を聞くことで、話し合いや表現することの楽しさをもたせるようにする。 ・様々な考え方を認め、自分の考えが書くことに対する抵抗をなくすように働きかけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のワークシートに自分や友達の考えを記述できている児童90%以上以上を目指す。 ・毎回のワークシートに自分の考えを記述できているか確かめる。
外国語 活動	<ul style="list-style-type: none"> 英語での指示を理解できずに、スムーズに問題や交流に取り組めない児童がいる。 英語を使って、友達と積極的にコミュニケーションをとることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語ノートを使用し、慣れの中から理解できるようにする。 ・チャンツやゲームを通して、英語に対しての親しみを感じさせることで、英語の楽しさに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が声を出す機会をつくり確かめる。（授業中の発言） ・日々の授業の様子で確認をする。簡単なクラスルームイングリッシュやジェスチャーが分かるようになる。（80%以上の児童）
間 総合的な 学習の時	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に課題を見付けたり、追究したりする児童が少ない。 ・調べたことやまとめたことと、自分のことを結び付けて考えられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味がわく題材を取り上げ、どんなことに興味をもち、どんなことを追究したいかを考える時間を確保する。 ・単元のまとめとして、「自分にできること」を設定し、どの児童にも考える時間を確保する。また、ゲストティチャーを招くことで生き方について直に考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートで自分なりの意見が書けているかで評価する。（B評価80%以上） ・ワークシートで自分にできることが書けているかで評価する。（B評価80%以上）

東久留米市立第十小学校 第5学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	中心人物の変容や説明文の要旨はほぼ読み取ることができテストの達成率が80%に対し、漢字や言葉の知識の達成率が70%にとどまってさらに正確な読み取りを目指し、読書を推奨する。	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の力を伸ばすため、国語辞典での意味調べ、新出漢字指導の際意味を重視することを反復して行う。 読書カードを用いて意欲を高め、友達の推薦する本を知ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識分野での達成率80%を目標とする。 読書カードを常時用いて、年間の読書50冊を目指す。
社会	自分の生活と結び付けて考え学習のまとめができる児童とそれが難しい児童との差がある。自らすすんで考え、主体的に取り組もうとする児童を増やしていく。	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題づくりにおいてできるだけ身近な社会的事象を取り上げるようにする。 問題解決型学習の定着を図り、見通しをもたせることで、自らすすんで取り組む態度を育て 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの振り返りで生活に結び付けて考えているかを評価する。(結びつけて考えている児童80%以上) ノートの振り返りから、主体的な取り組みの様子を見取る。(主体的に取り組む児童80%以上)
算数	既習事項を活用して自力解決ができない児童が多い。また、既習事項の定着が不十分な児童も自分の考えを分かりやすくノートに書いたり、説明したりすることが苦手な児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> 導入で既習事項の確認を行い、習熟度別に解き方のヒントを与える。反復練習を行う。 小集団で考える時間、説明をする機会や友達の書き方を見る機会を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート、宿題、プリント、ワークテスト(80%理解できている児童が80%) 活動の様子、ノートで思考力・表現力を見取り、ワークテストで確認する。(80%)
理科	実験や観察から分かったことを自ら考え、記述したり発表したりできる児童が少ない。 何のために実験しているのかを理解して取り組めていない児童がいる。	<ul style="list-style-type: none"> 考察の仕方を形式化し、自分の考えを書く時間を設けてからグループや全体で共有し、個々に考えを表現する場をもつ。 実験の前に「何を調べるための実験か」をプリントを通して確認させたり、説明させたりして言語化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート、発言、ワークテスト(ノートはB評価80%以上、ワークテストは達成率80%以上) ノート、発言、ワークシート、ワークテスト(ノート、ワークシートはB評価80%以上、ワークテストは達成率80%以上)
音楽	主体的にすすんで授業に取り組むことができない児童が10%程度いる。 器楽の課題で苦手意識のある児童が10%程度いる。	<ul style="list-style-type: none"> 実態に合ったワークシートや楽譜を作成し、意欲をもって授業に取り組めるようにする。 スモールステップの課題で達成感を感じられる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の様子を観察し、すすんで授業に参加できているかを確認する。(80%の児童) 個別に見取る機会を確保し、取り組みの様子を確認する。(80%の児童で基礎的な技能の習得)
図画工作	主体的に学習に取り組めない児童が20%程度いる。 絵を描くことに苦手意識をのめる児童が20%程度いる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味や発達段階に合わせた題材を設定する。学習規律が定着するよう、繰り返し指導 絵を描く前に演習できる場を設けたり、抽象表現など感覚で絵を描く楽しさを味わわせたり 	<ul style="list-style-type: none"> 活動を観察、指導する。(主知的に学びに向かう力B評価を90%以上を目指す。) 活動を観察、指導する。
家庭	被服実習などの作業に大変熱心で、一度でうまくいかなくても繰り返し取り組むことができる。その一方で、知識面の習得に個人差が大きい作業に熱心なことを生かし、より工夫した学習活動を自主的に行うよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> 実習と知識を比べながら確認し、正しい用語や方法の判断ができるように促す。 実習の際、より生活に生かせる方法を話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識面での正しい習得80%をめざす(ワークテスト) 振り返りカードの記述でより主体的な考えを書こうとしているか確認する。

体育	自分の課題を解決するために、どのようなことを考え、どんなことに取り組んだのかを表現できない児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに表現の例文を記載し、参考にする。 ・友達と振り返りを見合う時間や記入の時間を確保していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに考えたことが書けているか確認する。(児童の90%が書けているかを目標とする)
	運動能力(技能)の個人差が非常に大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ・異能力別でグループを組み、児童同士でアドバイスする場をつくっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子、学習カード(技能が向上したと思える児童80%)
徳特別の教科道	学習に積極的に参加できない児童がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードを活用し、自分の意見を書く時間を確保することと友達の意見を見る時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を書いたり、友達の意見を積極的に見たりしているか確かめる。(児童の7割が書けることを目標とする)
	教材を基に考えた価値について、より自分の生活に生かせるよう促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の振り返りで自分の生活を振り返り、この先の生活に生かせることを考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に自分の生活を振り返って一般化しているかを振り返りカードで確認する。(児童の80%が一般化できることを目標とする)
外国語	大文字と小文字の区別があいまいな児童や4線上に正しくアルファベットを書けない児童がいスピーチでメモやプリントを見ながら発表している児童が20%程度いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や授業中にアルファベットを書くことや意識して見る活動を確保する。 ・スピーチ前や授業時に、英語での会話する時間を確保し、英語での発表に自信をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート、ワークテスト(大文字、小文字を正しく4線上に書くことができる児童が90%) ・スピーチ(メモやプリントを見ずにスピーチが行える児童が90%)
時間総合的な学習の	自分の学習問題に対して、どのような手順で追究すればいいか考えられない児童がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・追究する手順のパターンをいくつか提示し、その中から自分で選ぶ。また、児童がいつでも確認できるように掲示等をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習の様子、活動の様子(追究する手順を理解して取り組んでいる児童が80%)
	自分の学習問題に対して、追究したことを表現することが苦手な児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が新聞や制作物の一例を示し、どのように表現すればいいのか見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、資料作成ソフト、制作物、発表(追求したことを分かりやすく表現できている児童が80%)

東久留米市立第十小学校 第6学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	物語の読解を苦手としている児童が多い。 漢字テストでなかなか点数が取れない児童がいる。	・読解が楽しくなるように、読解の仕方の工夫をする。読み取り方をパターン化したり、話し合いをしたりして楽しめるようにする。 ・宿題の仕方やテスト対策など点数が取れるように練習の方法を工夫させる。	・アンケートで国語が楽しいと感じている児童の割合を80%以上とする。 ・毎回の漢字テストの平均点が80点以上にする。
社会	主体的に取り組み、問題解決をしようとしている児童が少なく、一部に限られている。 資料から適切な情報を読み取り、めあてに対する答えを探すことが難しい児童がいる。また、事象の意味について考えられる児童が少ない。	・毎回の単元で、問題解決型学習を推進し、予想・学習計画・問題解決・まとめ・自分の考えと学習の流れを変えないようにする。 ・まとめの時間に、「なぜ」を問いとして投げかけることで、事象の意味について考えさせる。	・毎回のノートチェックで、問題解決型学習をしている児童90%以上を目指す。 ・学習問題に対する自分の考えを書いたときに、事象の意味について考えて書いている児童が80%以上を目指す。
算数	既習事項の定着が不十分であるため、それらを活用して新たな課題に取り組むことができない児童もいる。 筆算を丁寧に行えないため、繰り上がりの忘れや小数点のずれ等が生じ、誤答する児童が多い。	・授業のはじめに前時の復習を入れる。また、新しく学習したもの他に、それまでの復習を宿題とする。 ・計算問題・文章問題では、式のみではなく途中計算・確かめ計算など、筆算の重要性と、正確に表す力を身に付けさせる。	・ノート、発言、ワークテスト（ノートはB評価80%以上、ワークテストは達成率80%以上） ・ノート、ワークテスト（解けたはずの問題を簡単な計算ミスで落としたと感じる児童20%以下）
理科	何のためなのかを理解して、実験に取り組めていない児童がいる。 実験の結果から、分かったことを考えることが難しい児童がいる。	・実験の前に「何を調べるための実験か」をノートに書いたり説明させたりして言語化させる。 ・結果を全体で確認し、そこから何が言えるのかを各自考えさせ、グループで交流させる。	・ノート、発言、ワークテスト（ノートはB評価80%以上、ワークテストは達成率80%以上） ・ノート、発言、ワークテスト（ノートはB評価80%以上、ワークテストは達成率80%以上）
音楽	・積極的に課題解決に向かう姿勢が見られない児童が10%程度いる。 ・器楽の課題で苦手意識のある児童が10%程度いる。	・課題や活動形態を工夫し、一人一人が意識して学習に取り組めるようにする。 ・スモールステップの課題で達成感を感じられる機会を増やす。	・学習の様子の観察、ワークシートや楽譜の工夫をする。（すすんで取り組む児童80%） ・個別検定の機会を増やし、取り組みの様子を確認する。（基礎的な技能の習得80%）
図画工作	技能、工夫面における個人差が大きい。 特に絵を描くことに苦手意識のある児童が20%程度いる。	・製作の途中で、友達同士の良い工夫を見付け合ったり、写真で提示したりして、学び合える機会を増やす。 ・絵を描く前に演習できる場を設けたり、抽象表現など感覚で絵を描く楽しさを味わわせたり	・活動の観察、作品から評価する。（創造的な技能の評価A以上を30%以上を目指す。） ・活動を観察、指導する。

家庭	<p>実習などは丁寧に進められるが、振り返りにおいて課題の解決方法を思考することができていない。</p> <p>・調理や洗濯など、家庭科に関する用語の習得の状況が十分ではなく、また知識の定着が足りない児童がいる。</p>	<p>・家庭での実践を課題とし、実生活の中で課題に気づき、解決に向け考えるよう促す。</p> <p>・必要に応じて小テストを実施したり、実践の中で個別に質問したりして定着を図る。</p>	<p>ノート、発言、ワークテスト（ノートはB評価80%以上）</p> <p>ノート、発言、ワークテスト（ワークテストは達成率80%以上）</p>
体育	<p>学習カードにおける振り返りの内容が、「楽しかった」「よかった」など、めあてに沿っていない児童がいる。</p> <p>自分なりに学習活動の工夫ができず、同じことを繰り返している子がいる。</p>	<p>・学習のめあてを設定し、めあてに対してどうだったのかを振り返られるような学習カードの工夫を行う。</p> <p>・場の設定や学習活動の工夫など分かりやすい形で説明する。</p>	<p>・めあてに対してふりかえりを書いている児童の割合90%以上。</p> <p>・振り返りの時に、学習活動の工夫ができたと感じている児童の割合80%以上。</p>
道徳 特別の 教科	<p>いいことを書けばいいと思っている児童がいる。</p> <p>自分事として受けとめられない。</p>	<p>・道徳に価値についてどのように考えているか、考えさせる場面をつくり、児童の心を揺さぶる。</p> <p>・展開前段で価値について触れ、展開後段では自分や友達との時間を作り、価値について自分の考えを深めたり広げたりする時間を設定する。</p>	<p>・ねらいとしている価値について考えられている児童の割合90%以上。</p> <p>・自分と価値について考えている児童90%以上。（ワークシート）</p>
外国語	<p>アルファベットの大文字、小文字の正しい書き方や表記の違いが理解できていない児童が多く見られる。</p> <p>習得した表現を使って友達やALTとコミュニケーションを図れない児童がいる。</p>	<p>・単語や文を書き写す時間を設け、4線に正しく書けるように指導し、慣れさせる。</p> <p>・導入を簡単な会話からはじめ、発表をしっかりと褒めることで、自分の発言に自信をもたせる声かけをする。</p>	<p>・ワークシート、ワークテスト（アルファベットを大文字と小文字で適切に記述できる児童80%以上）</p> <p>・活動の様子、発言、コミュニケーションテスト（ALTからの質問に適切に受け答えられる児童75%以上）</p>
時間 総合的な 学習の	<p>見通しがもてず、調べ学習も進まない児童がいる。</p> <p>グループ学習になったときに自分からすすんで課題に向かったり、協力してできない児童がいる。</p>	<p>・内容に見合った資料を配布し、また、身近に一人一台のタブレット端末を置くことによってすぐに調べやすい環境をつくる。</p> <p>・分担をした時にやることを決め、役割を明確にする。また、いつまでに何をすればいいのかを明示する。</p>	<p>・ワークシートにどの程度記入したかで判断する。（めあてに対して調べている児童約80%）</p> <p>・出来上がったポスターや新聞などで判断する。</p>